

1 概要（令和3年度第1回審議会(R4.1.14開催) 資料より）

(1) 背景

第3期県立高校将来構想第1次実施計画【令和2年7月宮城県教育委員会】【抜粋】

「新たなタイプの学校」

○ 学校生活や学習に困難さを抱える生徒が、充実した学校生活を送るためには、学習に対する支援をはじめとした学校生活全般に関する支援体制の構築が必要です。このことから、時代や社会の変化、生徒のニーズを踏まえて、以下のような「新たなタイプの学校」の設置について検討します。

(2) 学校のコンセプト

個々に応じた多様な学び方を提供することにより、生徒自らが高校生活をデザインし、夢や希望を実現することができる学校

- 個々の興味・関心に応じた学習計画（単位制、多種多様な教科・科目）
- 個々のライフスタイルに合わせた学校生活（幅広い学習時間帯、マイ時間割）
- 個々の事情に対応可能な学校体制（相談体制の充実）

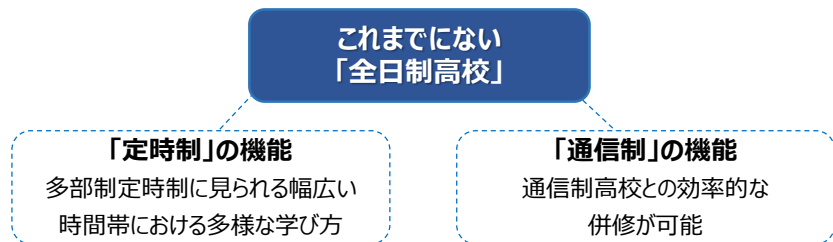
(3) 主に対象となる生徒

個々の状況に合わせてフレキシブルに学ぶことにより、自己実現や進路実現を目指す生徒

- どのような生徒でも自分のペースで勉強できる（単位制、マイ時間割）
- 集団生活が苦手など、様々な背景を抱えた生徒でも安心（フリークラス）
- 生徒の希望する進路の実現や目標の達成に向けてサポート（チューター制）
- 学び直しが必要な生徒へも対応（多種多様な教科・科目）

(4) 学校の位置付け

「定時制課程」及び「通信制課程」の機能を併せ持った「全日制課程」とすることを基本として検討する。



(5) 学校の魅力

多様な 学び方	多様な 生徒へのサポート
<p>-Point- 個別最適化を重視しているから、個々の特性に応じた柔軟な学び方ができる！</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 幅広い学習時間帯の中で自由な時間割設定 <input type="checkbox"/> クラスという概念はなく、集団よりも「個」を重視 <input type="checkbox"/> 通信制との併修も可能 	<p>-Point- 生徒へのきめ細かいサポートにより、安心して学校生活を送ることができる！</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> クラスを設置しない代わりに、チューターが生徒の進路に応じた時間割作成をサポート <input type="checkbox"/> スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャル・ワーカーの配置

多様な 進路の実現

- Point-**
大学進学から就職まで幅広い進路に対応した体制を整えているので、希望する進路を実現できる！
- 単位制であり、多種多様な教科・科目が用意されているので、自分の希望する進路に合ったものを選択して履修することが可能
 - 教科・科目選択についてはチューターがサポートし、生徒の目標達成を後押し

2 令和3年度第1回審議会（R4.1.14開催）で出された主な意見

・新たなタイプの学校の枠組み（コンセプト等）については、概ね御理解をいただき、教育内容等について、以下のとおり意見があった。

育成を目指す資質・能力について

- ・ぜひグローバルな人材育成を期待する。
- ・宮城の子供たちの人間力を高めるということが重要。
- ・生きるために必要な力を養うという視点で科目を選定して欲しい。

カリキュラムについて

- ・社会的自立に必要な能力という点で地域社会と関わりを持つようなカリキュラムがあっても良い。
- ・不登校傾向の生徒は体験的な学習で変わるのを実感しており、教育課程に盛り込み、単位認定できるシステムを構築して欲しい。
- ・探究的な学びや協働的な学習を通し、人との関わりを深めることが重要。
- ・生徒が伸びるときは、学生同士の学び合いである。学び合いの場を意識したプログラムに取り組んでほしい。
- ・個を重視しつつ、アクティブラーニングにどう対応するか。
- ・授業においてAIの導入を進めてほしい。
- ・もっと高度な学びを取り入れ、いろいろな人が学べる環境で入口を限定しないことが大事。
- ・全日制と通信制が連携し、落としそうな単位を修得できると良い。

チューター制について

- ・チューターについて、秋田県東成瀬村では、補助教員が付いており、しっかりフォローすることで好成績を収めている。
- ・チューターという概念が、これまでの導く・教えるではなく、生徒に寄り添いながら目覚めさせるということで、先生として新しいタイプの先生も必要。

学校運営について

- ・地域パートナーシップ会議やコミュニティスクールといったシステムを含めた方が良い。
- ・相談体制の充実としてSCやSSWだけではなく、外部の大人が入った居場所カフェのような空間もあると良い。

3 新たなタイプの学校の特色

<p>背景</p>	<p>○生徒の能力・適正や興味・関心，進路希望の多様化 ○様々な背景を抱えた生徒の増加（学校生活や学習に困難を抱える生徒など）</p>
<p>方向性</p>	<p>多様な学びのニーズへの対応や個々の生徒が安心して学習できる学校体制を構築するため、 これまでの全日制高校の枠にとらわれない学校づくりを目指す = 新たなタイプの学校</p>
<p>学校の特色</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 20px; text-align: center;"> <p>新たなタイプの学校</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>I フレキシブルな学び方</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 単位制の導入 (2) 幅広い授業時間帯の設定 (3) 単位の半期認定の導入 (4) 全通併修の活用 </div> <div style="width: 45%;"> <p>II 魅力ある学び</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 探究的な学び (2) 地域等と連携した学び (3) 学校外学修 (4) 多様な人材を活用した学び </div> </div> <hr style="border: 0.5px solid black;"/> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>III 多種多様な教科・科目</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 多様な進路希望に応じた教科・科目 (2) 学び直しに対応した教科・科目 (3) キャリアデザインモデルの提示 </div> <div style="width: 45%;"> <p>IV サポート体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) チューター制の導入 (2) 多様なスタッフの活用 (3) チューター間の連絡体制 (4) ICTを活用した生徒との連絡体制 </div> </div> </div>

I フレキシブルな学び方

<取組の方向性>

- 生徒一人一人の興味・関心やライフスタイルなど、生徒一人一人のニーズに応じた**柔軟な学びの実現**
- **生徒自らが学校生活をデザインし**、自由に楽しく学び、夢や希望を持つことができる教育課程の実現

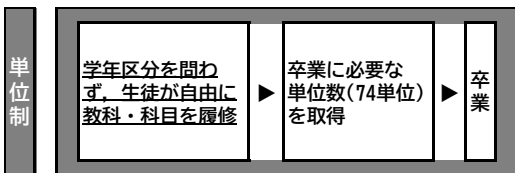
<主な取組イメージ>

(1) 単位制の導入

- ・学年区分を問わず、生徒が自由に教科・科目を選択できる**単位制を導入し、生徒自らが自由な時間割（マイ時間割）を作成**
- ・集団生活が苦手など、様々な背景を抱えた生徒でも安心して授業が受けられる**フリークラス**

【1週間の時間割設定】

【単位制の導入】



		月	火	水	木	金	
1	多種多様な教科・科目	選					
2	多種多様な教科・科目	選	選				
3	必修修科目	必	必	必	必	必	コアタイム
4		必	必	必	必	必	
5		必	必	必	必	必	
6		必	必	必	必	必	
7	多種多様な教科・科目	選		選			
8	多種多様な教科・科目	選					

(2) 幅広い授業時間帯の設定

- ・生徒一人一人の生活スタイルに柔軟に対応するため、**幅広い授業時間帯を設定**（8時間授業を想定）

【時程】

1校時	2校時	3校時	4校時	昼休み	5校時	6校時	7校時	8校時
9:00~	10:00~	11:00~	12:00~	12:50~	13:30~	14:30~	15:30~	16:30~
9:50	10:50	11:50	12:50	13:30	14:20	15:20	16:20	17:20
選択教科・科目の設置		コアタイム(必修修教科・科目の設置) LHR及び総合的な探究の時間等も含む					選択教科・科目の設置	

(3) 単位の半期認定の導入

- ・生徒の状況に応じた柔軟な時間割の編成が可能となるよう、**単位の半期認定を導入**

【前期（4月～9月）の時間割】

		月	火	水	木	金	
1	多種多様な教科・科目						
2	多種多様な教科・科目						
3	必修修科目	必	必	必	必	必	コアタイム
4		必	必	必	必	必	
5		必	必	必	必	必	
6		必	必	必	必	必	
7	多種多様な教科・科目	選	選	選	選		
8	多種多様な教科・科目	選	選		選		

【後期（10月～3月）の時間割】

		月	火	水	木	金	
1	多種多様な教科・科目		選	選			
2	多種多様な教科・科目	選	選	選	選	選	
3	必修修科目	必	必	必	必	必	コアタイム
4		必	必	必	必	必	
5		必	必	必	必	必	
6		必	必	必	必	必	
7	多種多様な教科・科目						
8	多種多様な教科・科目						

半期毎に時間割を編成

(4) 全通併修の活用

- ・学習意欲はありながら登校できない生徒などの学習機会の充実を図るため、**美田園高校の通信制課程を活用**
- ※36単位を上限に卒業単位として算入可能
- （自校が開設していない科目が原則）

<通信指導の流れ>



II 魅力ある学び

<取組の方向性>

■生徒の能力・適正や興味・関心、進路希望の多様化など、多様な学びのニーズに対応するため、**これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成に繋がる学びや多様な人材を活用した学びなど、魅力ある学びを実施**

<主な取組イメージ>

(1) 探究的な学び

・社会で必要となる問題解決能力を育むため、**地域に関する探究的な学びや教科・科目に関する探究的な学びを実施**

【地域に関する探究的な学び】



(2) 地域等と連携した学び

・社会参画に必要な資質・能力などを育むため、**小・中学校や大学・地域産業界と連携した学習活動を実施するほか、社会人聴講生の受入れなど、地域等と連携した学びを実施**

【小中学校との交流活動】



【大学等の講義受講】



【社会人聴講生の受入れ】



(3) 学校外学修

・社会的・職業的自立に必要な能力を育成するため、**ボランティアやインターンシップなどの体験的な学習に加え、資格取得や高卒認定など、様々な学校外学修を実施**

【ボランティア】



【インターンシップ】



※有償インターンシップ
についても検討

【資格取得】



(4) 多様な人材を活用した学び

・多様な学びのニーズに対応するため、**地域の人材などの外部人材を活用した学びを実施**

【企業経験者による探究プログラムの展開や探究のコーチング】



【退職教員による授業】



Ⅲ 多種多様な教科・科目

<取組の方向性>

- 大学進学から就職など幅広い進路希望を有する生徒に応じた教科・科目に加え、**学び直しが必要な生徒にも対応する教科・科目を設置**
- 本県の全日制高校の中ではトップクラスの**教科・科目数**を設置（70～80科目を想定）

<主な取組イメージ>

(1) 多様な進路希望に応じた教科・科目

・確かな学力の育成や豊かな人間性の涵養などに繋がる様々な教科・科目を設置し、多様な進路の実現に繋げる

設置する科目の視点

- 国公立大学受験に対応した学び
- 教養を深める学び
- 多様な興味・関心に応じた学び



多様な進路の実現

大学進学 専門学校 就職



(2) 学び直しに対応した教科・科目

・義務教育段階の学びが十分とは言えない生徒のために、**国語、数学、社会、理科、外国語の5教科において、学び直しの科目を設置**

【学び直しの履修イメージ】

学び直しの科目 (学校設定科目)		必修修科目
国語基礎	⇒	現代の国語, 言語文化
数学基礎	⇒	数学 I
社会基礎	⇒	地理総合, 歴史総合, 公共
理科基礎	⇒	科学と人間生活
英語基礎	⇒	英語コミュニケーション I

(3) キャリアデザインモデルの提示

・生徒が学習プランを立てやすくなるよう、多様な進路希望に応じたキャリアデザインモデルを学校において作成し、生徒に提示

【イメージ】※教育課程が固まり次第、より具体的に設計

	1年目	2年目	3年目	卒業
大学進学を目指す生徒	必修修科目に加え、大学受験に必要な科目を履修	必修修科目に加え、志望校の受験に必要な科目を履修	時間割を午前中に集中させ、午後は受験勉強	生徒の希望に応じた多様な進路の実現 (進学や就職)
将来をじっくり考えたい生徒	必修修科目を中心に履修	必修修科目に加え、自分の興味・関心のある科目を幅広く履修 (進路の決定)	進路実現に向けた科目を中心に履修	
学習が定着していない生徒	学び直しの科目を中心に履修	必修修科目を中心に履修し、併せて自分の興味・関心のある科目を履修 (進路の決定)	必修修科目に加え、進路実現に向けた科目を履修	

生徒の単位の取得状況に応じて4年目以降も在籍可能



IV サポート体制の充実

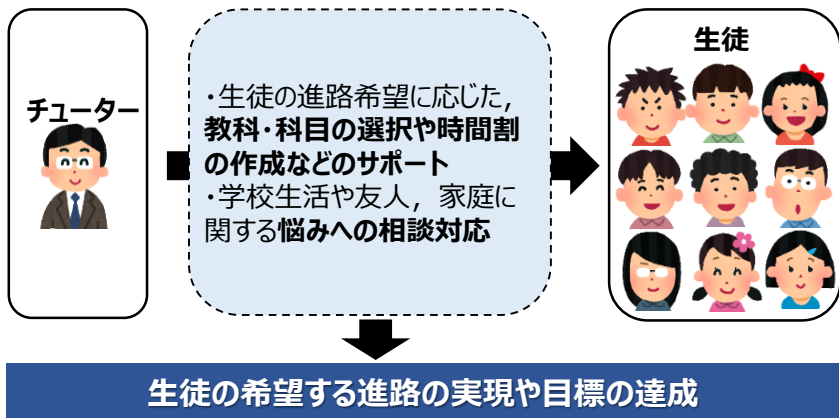
<取組の方向性>

- 生徒の希望する進路の実現や目標の達成のため、**生徒が安心して学習できるサポート体制を構築**

<主な取組イメージ>

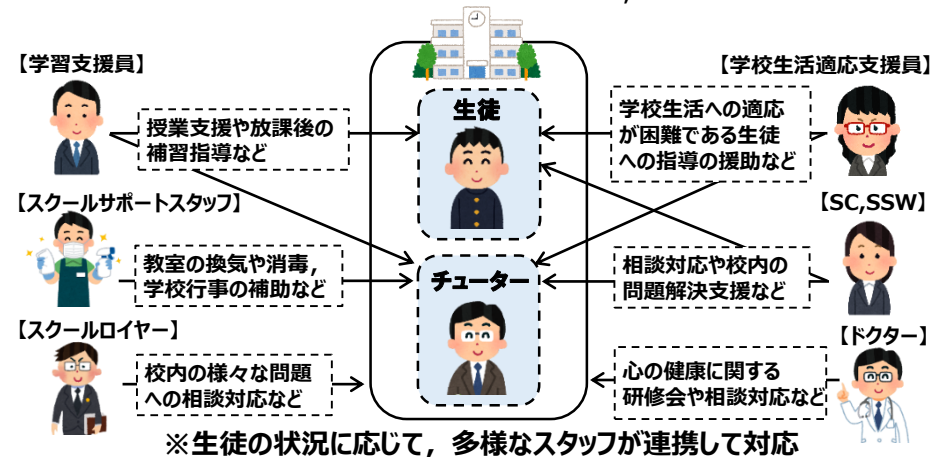
(1) チューター制の導入

- ・チューター制を導入し、学校生活や学習のサポートなど、**生徒の希望する進路の実現や目標達成に向けてサポート**



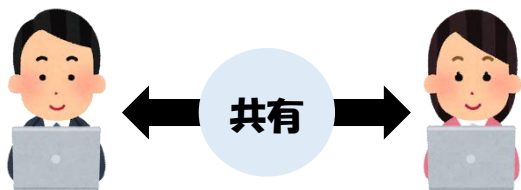
(2) 多様なスタッフの活用

- ・多様な生徒に対する**個別最適な学びを充実するほか、生徒一人一人が安心して学習できる学校体制を構築するため、多様なスタッフを活用**



(3) チューター間の連絡体制

- ・フレキシブルな学びに対応するため、校内のネットワーク環境（教務支援システムなど）を活用し、**生徒一人一人の学習や生活状況をチューター間で共有**



(4) ICTを活用した生徒との連絡体制

- ・登下校及び授業の出欠、学校からの配布物や連絡事項など、**ICTを活用した効率的な連絡体制を整備**

【ICカードを活用した登下校確認】



【メールを活用した連絡】



4 学校の設置イメージ

(1) 設置場所（既存校の活用を想定）

【検討の視点】

- 新たなタイプの学校への転換により、**既存校の特色や活力をより高めることに繋がること**
 - 生徒にとって**通いやすい場所**であること（幅広い時間帯での授業展開）
 - 近くに既存の多部制定時制が存在しないなど、**配置バランスとして適切**であること
 - できるだけ**早期に開校**できること
 - 施設上、**一定の規模を有すること**（多種多様な教科・科目）
 - 空き時間があることから、**フリースペースを準備すること**（自由な時間割の設定）
- ⇒ **仙台市内又は仙台近郊の既存校を活用**

(2) 学校規模

【検討の視点】

- 第3期県立高校将来構想で示す学校の規模**であること（適切な規模の目安4～8学級（1学年））
 - 個に柔軟な学びを効果的に実施する上で、**生徒数と教員数のバランスから適正な規模**であること（チューター制等の対応）
 - 施設規模を踏まえたものであること（多種多様な教科・科目の設置を想定しており、通常以上の教室数が必要）
- ⇒ **募集定員は、4～5学級規模（160人～200人）を想定**

(3) 開校年度

- 令和8年度を想定**